

高岡ロータリークラブ

会長／山本 毅 幹事／塩崎 吉康



2022/6/2

No.38

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

例会日：木曜日 12:30～13:30 創立：1951/11/15 チャーターナイト：1952/4/15 創立順位：No.6

司会 竹田 会場監督 点鐘 山本 会長

点鐘

国歌斉唱

ロータリーの目的／四つのテスト

ゲスト

高岡市長 角田 悠紀氏

主任 平木 祥平氏

会長挨拶

◇誕生祝

原 良輔さん (6/5・46才)

◇皆出席表彰

若野 恒彦さん (32年)

折井 宏司さん (3年)

◇ロータリー財団からフェローピンの贈呈

第7回 ポールハリスフェロー 本多 剛治さん

幹事報告

◇6月のロータリーレートは1\$=127円(5月130円)

◇5RC 次年度会長幹事会

⇒本日 フォーシーズン 18:00～

< ニコニコBOX12件 38,000円 >

山本(毅)会長／高岡市長角田悠紀様、御多忙のところお出で頂き誠に有難うございます。卓話よろしくお願ひします。

加茂副会長／5月の総会シーズンを乗り切りようやく出席できました。本日の卓話、角田市長の話が楽しみです。

塩崎(吉)幹事／角田高岡市長をお迎えして。昨年11月の70周年記念式典にご招待していたにもかかわらず、コロナ禍でご参加をご遠慮いただき誠に申し訳ございませんでした。本日は卓話楽しみにしております。

永田会員／角田市長、ご来会まことに有難うございます。卓話楽しみにしております。

若野会員／市長ようこそ高岡 RC へ！皆出席祝を頂きまして有難うございます。

西村会員／のむら商工振興会創立35周年、高岡法人会創立70周年の記念事業を無事終了することが出来ました。そして本日の卓話者、角田高岡市長には、それぞれご臨席頂き感謝申し上げます。又、北日本新聞社さん記事掲載ありがとうございました。



中村会員／先週の野村商工振興会の35周年事業で角田市長に「特別記念講演」ならびに「パネラー」としてご登壇いただき花を添えていただきました。本日の卓話楽しみにしております！

竹中君／角田市長、高岡クラフト旅のおもてなし補正予算ありがとうございます。高岡を前へ！

立浪会員／2年間、失礼いたしました。

四津谷会員／先日予告していましたようにロードバイクの大会グランfond 2022に出場いたしました。恥ずかしながらガンダムの仮装で出ました。後ろ指さされることを覚悟のうえでの出場です。無事に180キロ完走いたしました。ロータリアンとして、国宝の寺の住職として品位を下げた行為と陰口をする方もいらっしやるでしょう。「君主危うきに近づかず」です。実は出場の前日トップガンマーベリックを観ました。



トム・クルーズも59歳、しかしスタントCGなしの姿に感動しました。映画の重要シーンで名セリフがありました。Don't think! Just do! 考えるな、行動しろ！富山マラソン出場します。楽しみです。午後から団体があるので早退いたします。市長の話が聞けず残念です。

原会員／入会したてにも関わらず記念品を頂いて誠に有難うございます。良い46歳になりそうです。

牧野会員／前回、誕生祝をいただき。

《出席報告》

7/1期初 76名 (内名誉会員2名)

正会員／76名

出席免除／2名 (免除者の出席0名)

本日の出席者／50名

《 プログラム 》

卓話 「高岡を前へ！市民と共につくる新しい高岡」

高岡市長 角田悠紀 氏

きょうは、高岡市が何を目指さなければいけないのか？高岡市役所が今、どういうことを考えているのかを皆さんと共有させて頂いて、一緒にまちづくりを進めていただければと思っています。

ロータリーの「四つのテスト」を本日初めて聞きましたが、これはまさに市役所の仕事に当てはまります。一つ目、「真実かどうか」。これを見抜くのはたいへんです。市民の要望から何が必要なのかを見抜いて対応していこうと職員にお願いしています。そして「みんなに公平か」。市役所は全体の奉仕者でなければならず、特定の誰かに利益があることはできません。ただ、一人ひとりの意見は大切にします。その意見が16万6千人の市民に役立つのか？判断するのが私の仕事です。そして「好意と友情を深めるか」。まさに相手は市民です。すべての市民の皆さんに市役所という組織に好意を持ってもらって、一緒になってまちを作っていこうと思ってもらえる組織にならないといけません。そして最後は「市民のためになるかどうか」です。ここを私の大事な立ち位置にして、「やる」「やらない」を含めて、常に意識して、日ごろの政務・公務にあたっております。先ほど、竹中さんから、新しい施策についてメッセージがありました。コロナ禍で苦しんでいる伝統産業の方々を支援するための事業を今回、立ち上げました。6月議会で議論していただくこととなります。これまでの支援事業は単に伝統工芸品の販売や伝統産業を支援する一方通行の取り組みでしたが、今回は伝統産業を支援することで、どんな効果が得られるのか、どこの産業に波及してくのかを考えて事業を作りました。エリアは飛越能の石川、岐阜、富山で、この地域で伝統工芸品を買っていただいた方に助成を始めることにしました。伝統産業の業界のみならず、観光産業や飲食店が、新しい挑戦をできる仕組みですので、三方良し、市民も加えれば四方良しの事業です。これは、一人でも多くの方を巻き込んで、みなさんからお預かりしている大切な税を使わせて頂く施策です。

「真実かどうか」大変重要な観点だと思えます。「高岡は、な～んあかん、財政難やから」「何しても中途半端」。でも、その中途半端を作っていたのは誰なのか、皆さんと共有したいと思えます。私は今の高岡を変えてほしい、高岡を前へ進めてほしい、そんな声を受けて市長という職責を預らせていただいております。私は、高岡を変えるのは、今を生きる大人の責任だと思っています。30年後の未来を見据えて、高岡の現状を皆さんと共有してしっかり議論をしていかなければなりません。高岡の人口は、ピーク時の1985年の18万8千人（旧高岡市と旧福岡町の合計）から2020年には16万6千人に大きく減っています。本気でこの人口減少と向き合っていかなければと思っています。わたしは今39歳ですが、わたしの足りない部分をみなさんの力を貸していただき、高岡のまちを一緒に作っていただきたいのです。自分の利益だけでなく、地域の利益、高岡の利益を一緒に考えていただいてまちづくりを進めていけば、みなさんの企業も持続的な形に変わっていくと思えます。今回、全国で初めて万葉歌碑のプロジェクトが高岡にめぐってきました。ただし予算は1千万。私は、このプロジェクトをきっかけに高岡万葉を前へ前へと全国に、発信していきたいのですが、高岡市役所だけでは限りがありますので、永田さんに力を貸してほしいとお願いしました。実は、このプロジェクトがスタート直前のため、きょうのところは詳しい話はできませんが、私としては国、県、地域の力を借りながら、点を線に面に変えていく計画を高岡市から仕掛けていこうと考えています。まちづくりの主役は市民でなければなりません。一人一人の古城公園に対する夢もまちづくりです。老朽化した市役所の改築・移転問題、中心市街地の活性化問題、城端線、氷見線の直通化・LRT化の問題などをめぐっては、市民のみなさんに現状の課題を共有していただきながら、賛否を含めてしっかり議論をして、方向性を示していこうと思っています。新しい時代の高岡がどんなまちに変わればいいのか、前向きに明るく、一緒に考えていただきたいのです。スピード感をもって高岡の改革に努めていきますが、私一人の力では足りません。市民の皆さんと同じ方向を向いて、時に厳しい声をいただきながら、新しい高岡のまちを作っていく。それが私の掲げる「高岡を前へ」であります。今いるところより一歩前へ、進んでいただくことをお願いして私の卓話とさせていただきます。

